

地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター 令和3年度の業務実績評価結果【報告書】

資料3

◎ 小項目評価（判断理由等）

1 住民サービス等質の向上（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置）

小項目区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
①地域完結型医療の推進【4～6P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、保健所からの要請による紹介書なしの患者が増加したことで、紹介率は目標値を下回ったものの、中期目標期間を通して高水準に推移している。また、逆紹介率は地域の医療機関との連携を図られたことで目標値を大きく超える水準となっている。 地域医療従事者を対象とした研修会では、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、体制を整備した上でのオンライン研修や医療圏が広い中で参加しやすい環境を整えるなど工夫して実施した。以上により、目標値を下回る項目があり指標だけ見ればD評価ではあるものの、コロナ禍の中で臨機応変に工夫して対応されたことからC評価とする。
②提供する医療サービスの充実（救急医療）【7～9P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 医療センターが受け入れた「救急車・ヘリ搬送件数」は対前年度比で5.2%増加（2,967件→3,123件）した。また、重篤な患者の受け入れ割合については、前年度同様に大きく伸びており（50.6%→54.2%）、県北唯一の救命救急センターとして初期・二次救急医療機関の役割分担を図られていることが見てとれる。また、新型コロナウイルス感染症の影響によりWeb形式ではあったものの、救急業務の高度化への対応、救急隊員の技能向上に寄与するため、救急隊との学習会を開催した。 指標だけ見ればD評価ではあるが、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、前年度と比較して実績が伸びた項目があること、三次救急医療機関として救急隊等との連携が進んでいることから、C評価とする。
③提供する医療サービスの充実（がん医療）【10～12P】	B 計画を上回って	B 計画を上回って	B 計画を上回って	<ul style="list-style-type: none"> 近年、がん治療は入院から外来治療（通院）へのシフトが進んでいることから、入院患者は目標値を下回ったものの、外来化学療法や放射線治療の件数は目標値を達成した。また、認定遺伝カウンセラー修士課程修了者の配置と遺伝カウンセリング室の設置を行い、がんゲノム医療連携病院としての取り組みが進まれている。 がん相談件数については、新型コロナウイルス感染症の行動制限により、がん相談支援センターの利用者数が減少したことによる。地域がん診療連携拠点病院として積極的な取り組みを行っており、がん入院患者数（実人員）及びコロナ禍の影響を受けたがん相談件数以外の項目では、計画を上回って進捗していることからB評価とする。
④提供する医療サービスの充実（小児・周産期医療）【13～14P】	C 概ね計画通り	D 計画を下回って	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 県北地域の小児医療の基幹病院として24時間体制で診療にあたっており、そのような中、引き続き9名の医師を確保することで体制の維持に努めた。 指標に関しては、地域の産婦人科医と連携してハイリスク妊娠・分娩への対応を行うことで、目標値には届かなかったものの、異常分娩件数は昨年度実績よりも上回った。また、新型コロナウイルス陽性患者の出産にも対応し、地域に必要な小児・周産期医療を十分に行った。 指標だけ見ればD評価となるが、コロナ禍でも県北地域の基幹病院として積極的な役割を果たしたことからC評価とする。
⑤提供する医療サービスの充実（高度専門医療）【15～17P】	A 計画を大幅に上回って	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により患者数そのものが減少している中において、急性期病院として重要な指標である手術件数及び全身麻酔件数が前年度と比較して伸びている。また、前立腺がん、直腸がん、胃がんなどに対しては、ロボット支援手術を開始し、域外に出ることなく高度医療を受けることができる環境を整備した。さらに、複数のエックス線エネルギーで行うCT撮影装置（デュアルCT）を導入するなど、悪性腫瘍の診断向上にも取り組んだ。人材育成の観点からは、総合医療センター内で高度医療に携わることができるため、若手医師の育成なども期待される。 評価では、気管支鏡検査・処置件数などの4項目が目標を下回ったため指標だけ見ればC評価ではあるが、積極的に域内で高度医療を受けることができる体制・環境づくりに取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、全身麻酔件数やMRI撮影件数などが伸びたことを考慮し、B評価とする。

<p>⑥提供する医療サービスの充実（政策医療）【18～21P】</p>	<p>B 計画を上回って</p>	<p>C 計画を上回って</p>	<p>B 計画を上回って</p>	<ul style="list-style-type: none"> 離島医療について、宇久診療所では4月から1名の常勤医師を確保し、更新計画に基づいた医療機器等の更新を行った。黒島・高島両診療所においても、新しい常勤医師1名を確保することができ、島民が安心して利用できる診療体制を維持した。医師を確保できたのも、総合医療センターの離島医療人材確保に対するこれまでの取り組み（都心部への説明会参加など）の結果である。感染症指定医療機関として、引き続き結核病棟を新型コロナウイルス感染症の受入れ専用病棟とし、重症患者の受入れを行いながら一般診療を維持し、公立病院としての役割を果たした。 指標を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響により、高島を除いて外来患者数の実績値が目標値を下回っており、指標だけ見ればC評価ではあるが、医師を確保し離島医療体制の維持に取り組まれたこと、計画策定段階では想定することができない中、結核病棟では前年度の2倍を超える新型コロナウイルス感染症関連の入院患者を2,414名（延べ）受入れたことを踏まえ、B評価とする。
<p>⑦医療人育成体制の充実（医師の研修制度の充実）【22～24P】</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>D 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医学生実習受入数については、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、前年度より1名多い実績となった。研修医の確保・育成は基幹型の研修医が前年度より3名下回る実績となったが、協力型の研修医は前年度同様の6名を確保した。病院運営において研修医の確保は重要であり、今後は処遇改善などを行い医師（医学生）にとって魅力ある病院づくりに、より一層取り組む必要がある。 専門医育成では、外科の研修施設取得により専門研修プログラム数（基幹施設）が前年度より1増加した。指標については目標値を下回った項目が多く指標だけ見ればD評価ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響によること及びコロナ禍の中総合医療センターによる運営努力を行ったことを踏まえC評価とする。
<p>⑧医療人育成体制の充実（看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実）【25～28P】</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>D 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者の育成では、特定行為研修を修了した看護師及び専門・認定看護師数が目標を達成した。特定行為研修を修了することで、医師の診療方法や思考過程を学び、チーム医療を円滑にする役割を担っていく。薬剤師及びその他の医療技術者の専門資格取得者は目標を下回ったが、これは新型コロナウイルス感染症の影響で研修・試験自体が中止されたことによる。 学生実習の充実についても、新型コロナウイルス感染症の影響により看護師や医療技術職の学生の受入が目標を下回ったが、医師・看護師の市立看護専門学校への講師派遣は目標を達成した。したがって、実績各項目を見るとD評価ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響によることやリモート講義の実施といった工夫した学生実習を行ったことからC評価とする。
<p>⑨医学研究の推進【29～30P】</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>D 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 肺がん、直腸がん、市中肺炎、発作性夜間ヘモグロビン尿症の疾患を対象とする治験を行い、治療継続契約件数は目標に近い4件となった。その他の治験新規契約件数及び臨床研究審査件数も目標をほぼ達成している。 治験に関しては、被験者の安全を守ることが最優先であり厳しい基準が課せられ、総合医療センターでは、院内に治験審査委員会を設けて倫理性や試験の科学性を議論し、R3年度は6回開催した。 委員会の開催内容についてはホームページで積極的に情報発信し、コロナ禍の中でも治験の研究活動に努めた。実績値が目標値を達成していないことから指標だけ見ればD評価ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響であることからC評価とする。
<p>⑩医療の質の向上（施設、設備の充実）【31～32P】</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>B 計画を上回って</p>	<p>B 計画を上回って</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度専門医療の提供のため、手術支援ロボット及びX線コンピュータ断層撮影装置の導入・更新を行い、施設整備では照明器具改修事業を実施した。世界的な半導体不足により情報システム整備事業は令和4年度に繰り越しとなったものの、計画通りに進捗した。 新型コロナウイルス感染症による医療需要の変化を見極めながら、高度専門医療の提供を果たすための設備整備を行い、総合医療センターの役割を十分に果たしたものとしてB評価とする。
<p>⑪医療の質の向上（医療従事者の確保）【33～34P】</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療及び離島医療の維持のためには、医師の人材確保は重要であるが、目標を1名上回る人材を確保できた。また、医療技術職は目標を6名上回った。一方で、看護師の人員数が目標を下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症による労働環境の変化や全国的な人材不足により、目標を下回ったのはやむを得ないといえる。しかしながら、県北地域の基幹病院としての役割を果たすために、医療従事者の確保は最重要課題であることから、合同説明会への積極的な参加、働き方改革の実践など、様々な取り組みを行った。 目標に届いていない指標はあるものの、コロナ禍にありながら一部で目標を大きく達成した職種もあり、人材確保のための魅力ある職場環境づくりにも積極的に取り組まれたことから、C評価とする。
<p>⑫医療の質の向上（患者サービスの向上）【35～38P】</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<p>C 概ね計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 患者の満足度を図るアンケート調査の結果では、5段階評価の平均値、満足した人の割合、不満な人の割合が対前年度比で改善された。特に、不満な人の割合は0.6ポイント減少し、患者が安心して医療を受けることができる環境が整備されてきたといえる。 患者相談（がん除く）については、相談に社会福祉士（12名）が病棟などでも相談を受けていることから、R2年度より集計する事項の見直しをしたところ実績が伸びた。総合相談窓口には、看護師経験を有した相談員や医療対話推進者養成セミナーを受講完了した相談員、がん相談員を配置した。ファーストコンタクトは、相談員（看護師経験者）を中心に受けたが、相談内容によってはがん相談員や社会福祉士が対応し、安心して医療を受けることができる環境づくりに努めた。

				<ul style="list-style-type: none"> 職員の接遇向上を図るための取り組みとして、WEB研修とe-learningにより職員接遇研修を開催し参加率は目標を大きく上回った。研修に満足した人の割合も非常に高く、大変良い研修を開催した。ボランティアの受入れについては、新型コロナウイルス感染症の影響により受入休止を継続した。目標を達成できていない項目はあるものの、全体的に計画を達成していることからC評価とする。
⑬ 医療の質の向上（安全性の高い信頼される医療） 【39～42 P】	B 計画を上回って	B 計画を上回って	B 計画を上回って	<ul style="list-style-type: none"> 佐世保県北医療圏の中核を担い、第2種感染症指定医療機関として一般診療を維持しながら新型コロナウイルス感染症の対応にあたった。院内感染を防ぐため、対策会議を随時開催し、感染対策の実施や行動規範の改定を行った。さらにホームページで広く感染防止対策に関する情報、お知らせを掲載するなど幅広い呼びかけを行った。 重症患者の受入れや陽性患者の分娩に対応し、感染症指定医療機関の使命を十分に果たした。医療安全対策については、医療安全管理者養成研修の受講により、研修を修了した医師が3名、看護師が3名となり、体制の充実が図られた。 このほか、インフォームドコンセントの徹底のための説明書・同意書の整備に取り組み、患者中心の医療提供を整備した。指標の院内研修会については、いずれも目標に近い99%の受講率となっている。コロナ禍で一部利用縮小はあったものの、医療従事者の献身的な対応により、地域の医療崩壊を防ぎながら医療提供がされたことは県北地域の中核病院としての役割を十分に果たしていることから、B評価とする。
⑭ 情報提供の充実（分かりやすい保健・医療の情報発信） 【43～44 P】	B 計画を上回って	B 計画を上回って	B 計画を上回って	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により対面での講演会は中止となったが、代替として、Youtubeチャンネルを利用して健康教室の動画配信を行った。また、総合医療センターの最新の動きなどを紹介する広報紙を年4回発行し、医療圏住民に対して、分かりやすく詳細な情報発信がなされた。 指標をみると目標を超える視聴回数（参加人数）となっており、コロナ禍の中で工夫した良い取り組みが実践されたことから、B評価とする。
⑮ 情報提供の充実（病院情報の公開） 【45 P】	C 概ね計画通り	C 計画を上回って	C 計画を上回って	<ul style="list-style-type: none"> 疾病統計や患者数・在院日数などをホームページ上で公開し、疾病統計については外国人向けに英語表記でも公開した。また、DPCデータを分析し、毎月の会議で医師と情報共有することで、改善点の抽出を行い、今後の取り組みなどに活用した。概ね計画通りとしてC評価とする。

2 業務運営の改善及び効率化（業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置）

小項目区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
① 法人管理運営体制の確立（適正な法人管理体制の構築） 【46 P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 前年度同様、理事会を定期的で開催し、新型コロナウイルス感染症の体制等の現状や財務状況報告、働き方改革などについて報告・協議を行い、法人の的確な管理運営がなされた。 また、内部統制に必要な契約監視委員会や監事監査、内部監査を実施した。計画通りに取り組まれたことからC評価とする。
② 法人管理運営体制の確立（効率的な病院運営） 【47～48 P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、経営会議を開催し、迅速な意思決定（必要に応じて理事会へ）を行うことで、収入面では診療報酬加算に対応した人員の配置や働き方改革に取り組むことができ、また、法人の特性である迅速かつ柔軟性のある予算執行、機動的な病院運営ができた。ゆえに概ね計画通り進んだものとしてC評価とする。
③ 経営管理人材の育成 【49～50 P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により対面研修への参加が困難な中、WEB形式により研修機会を確保し、経営管理に携わる職員の人材育成に努めた。 本項目においては特に指標は設定されていないが、コロナ禍の中工夫しながら研修機会を確保し、戦略的な病院運営を行うために必要な経営管理人材の育成に取り組まれたことから、C評価とする。

3 財務内容の改善（財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置）

小項目区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
① 経営基盤の 確立 【51～52P】	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率と医業収支比率ともに目標と対前年度を超える良好な実績となった。医業収支比率については、対前年度比で1.2ポイント伸びたが、これは、施設基準の取得や平均在院日数の管理により入院診療単価及び外来診療単価の向上、可能な限りの材料費の見直しを努めたことによるものである。 経常収支比率については、対前年度比で0.9ポイント伸びたが、医業収益の増加とともに新型コロナウイルス感染症対策の補助金約3,039百万円交付されたことによるものである。こういった経営情報は、毎月の全体会議で診療科別に月次決算の説明がなされており、戦略的な病院運営の醸成が組織全体で図られている。 経常収支比率が目標を大きく超え、医業収支比率も目標を達成したため指標だけ見ればB評価となるが、新型コロナウイルス感染症対策のための補助金収入の影響が大きいことなどから、概ね計画通りとしてC評価とする。
② 適正な収益 と費用（適正な 収益） 【53～54P】	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限、入院制限などにより、入院患者数及び外来患者数は目標値を達成できなかったが、施設基準の取得による診療報酬の確保及び手術支援ロボット導入による高度医療を総合的に提供したことで、入院単価と外来単価が上がり、医業収益は前年度実績を超えた。 また、平均在院日数の指標は、地域の医療機関と連携することで短縮を図り、目標値を達成した。医業利益率はマイナスとなっているものの、これは新型コロナウイルス感染症患者対応のための空床確保による特殊事情のものであり、これについては県からの補助金でカバーされている。 収益の総額が205億円と前年度比で10.6億円の増収となっているため、その割合だけ見ればB評価とも考えられるが、新型コロナウイルス感染症関連の補助金収入の影響が大きいことや、目標値を下回る項目が多いことなどを考慮する必要がある。一方で、コロナ禍の中で、施設基準の取得や手術支援ロボット導入により、診療単価の改善や新規入院患者の確保に努めており、総合的に判断してC評価とする。
③ 適正な収益 と費用（適正な 費用） 【55～57P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改定や医療関連法令の改正など、医療環境の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得・維持に向けた人員配置、必要な人員の確保を行った。人件費比率は新型コロナウイルス感染症の影響により医業収益が減少したことで増加したが、目標値内に収めることができた。 医薬品などの材料費については、引き続き価格交渉に努めたほか、経費においては委託業務の定期的な見直しや複数年契約の実施などにより、節減に取り組んだ。診断材料費は、目標値を0.5ポイント超えたが、これはPCR検査試薬の使用量の増加などによるものであり、感染症指定医療機関としてコロナ対策にあたったものであるため、止むを得ないものと考えて当然である。 後発医薬品使用率は目標値を下回ったが、高水準を維持した。総合医療センターの使命・役割を果たしながら、費用節減に取り組むのは容易ではないが、令和3年度も引き続き費用の適正化に取り組み、概ね計画通りに進捗したことから、C評価とする。
④ 予算、収支計 画、資金計画 【64～69P】	C 概ね計画通り	B 計画を上回って	C 概ね計画通り	<p>【予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算については、収入総額において決算額が計画額を31億9,500万円上回り、支出総額では決算額が計画額を9,500万円上回った。 収入決算額が計画額を上回った理由については、医業収益が計画よりも2億7,000万円上回ったこと、新型コロナウイルス感染症関連などの補助金収益が29億9,200万円上回ったことによるものである。 支出については、前年度比で患者数、手術件数、検査試薬費の増加により材料費が1億9,900万円上回ったことなどによるものである。 <p>【収支計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支計画では純利益が計画より32億1,400万円多い21億6,900万円となり、計画を大きく上回る利益が確保された。 これは、収入面では新型コロナウイルス感染症の影響により患者数が減少した中で、手術支援ロボット導入による新規入院患者の確保や、夜間急性期看護補助体制加算等の施設基準の取得に取り組むことで診療単価を伸ばし、医業収益が計画より2億6,500万円上回ったこと。また、補助金等収益が新型コロナウイルス感染症対策により30億3,900万円交付されたことが影響している。 一方、支出面では、PCR検査件数の増加から診療材料費が増加し計画より1億7,800万円上回ったことなどから、全体の営業費用が6,700

			<p>万円計画より上回ったが、収入の伸びが支出の伸びよりも大きかったことなどから、計画を大きく上回る純利益が計上されている。</p> <p>【資金計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金計画については、当初の見込みより41億8,100万円多い83億3,200万円を翌事業年度に繰り越した。これは主に、補助金等による収入が増加したこと、計画時点で算出できなかった定期預金の払出による収入が計上されたことによるものである。支出面に着目すると、材料費支出が計画を下回り、適切な節減に取り組んでいる。 その他の各評価指標に関しては、医業利益率は▲3.01%で医業収支は赤字ではあるものの、前年度より縮減している。自己資本比率や固定長期適合率、流動比率も安全とされる数値はクリアしている。純利益が目標値を大きく超えていることだけ見ればB評価ではあるが、純利益増加の理由が新型コロナウイルス感染症関連の補助金であることから、C評価とする。
--	--	--	---

4 その他業務運営に関する重要事項

小項目区分	法人自己評価	評価者評価		評価者の評価内容
		通常評価	最終評価	
① 地域医療構想の実現に向けた取り組み【58～59P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症の陽性入院患者受入対応などを行いながら、急性期医療・高度医療の医療機関として一般の重症患者の受入れも行った。また、手術支援ロボットを導入したことにより、より広域で治療を受ける必要があった患者が総合医療センターで治療を受けることが可能になり、佐世保県北医療圏内で高度医療を受けることができる体制整備に取り組んだ。 コロナ禍によりWeb形式にて県主催による地域医療構想調整会議が開催されたが、圏内において、救急医療、高度専門医療を提供するという総合医療センターの役割は変わらず、引き続き地域の医療機関などと連携しながら、その役割を果たした。これらのことから、総合的にみてC評価とする。
② 働き方改革の推進【60～61P】	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	C 概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から改正医療法が施行され、医師に対する時間外労働の上限規制の運用開始に向けて、「医師の働き方改革プロジェクト」を中心に積極的に取り組んだ。例えば、タイムカード増設による時間外勤務の把握、時間外命令との乖離を確認することで、時間外勤務の縮減に取り組んだ。また、多職種と連携の上、タスクシフティング・シェアリングを推進し、医療安全・働き方改革講演会も開催した。 医師を中心とした長時間労働の改善やワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組まれていることから、C評価とする。
③ 災害時における事業継続性の強化【62～63P】	B 計画を上回って	B 計画を上回って	B 計画を上回って	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応のため、定期的に災害医療対策本部を開催し、コロナ陽性患者の受入体制の整備や院内感染対策など、新型コロナウイルス感染症に対処するための方策を議論し、危機管理の対応に臨んだ。また、クラスターが発生し施設運営が困難になった病院・施設に対して看護師の人材派遣を行った。 災害医療訓練はコロナ禍により中止となったものの、BCP（業務継続計画）の小規模な修正や病院機能を維持するための水の確保について検討を進めた。新型コロナウイルス感染症流行という危機的状況においても、状況に応じた診療提供体制を確保し地域の関係機関と連携した取り組みを行ったことから、計画を上回って対応されたと判断し、B評価とする。

◎ 大項目評価 ※ () 書きは、当初想定を超えた新型コロナウイルス感染症の影響を考慮せず、計画に沿って評価した場合

1 住民サービス等質の向上	2 業務運営の改善及び効率化	3 財務内容の改善	4 その他業務運営に関する重要事項
C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 B:6、C:9】 (評価者評価 通常 B:4、C:5、D:6)	C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 C:3】 (評価者評価 通常 C:3)	C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 C:4】 (評価者評価 通常 B:3、C:1)	C 概ね計画通り 【評価者評価 最終 B:1、C:2】 (評価者評価 通常 B:1、C:2)

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 大項目評価の結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	6 (4)	9 (5)	0 (6)	0	15項目
点数	0	24 (16)	27 (15)	0 (12)	0	51点 (43点)

【平均点】 51点 ÷ 15項目 = 3.40 ≒ 3点 (評価区分 C)
(43点 ÷ 15項目 = 2.87 ≒ 3点 (評価区分 C))

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 大項目評価の結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0	3 (3)	0	0	3項目
点数	0	0	9 (9)	0	0	9点 (9点)

【平均点】 9点 ÷ 3項目 = 3.00 ≒ 3点 (評価区分 C)
(9点 ÷ 3項目 = 3.00 ≒ 3点 (評価区分 C))

3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 大項目の評価結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0 (3)	4 (1)	0	0	4項目
点数	0	0 (12)	12 (3)	0	0	12点 (15点)

【平均点】 12点 ÷ 4項目 = 3.00 ≒ 3点 (評価区分 C)
(15点 ÷ 4項目 = 3.75 ≒ 4点 (評価区分 B))

4 その他業務運営に関する重要事項 大項目の評価結果 C (目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	1 (1)	2 (2)	0	0	3項目
点数	0	4 (4)	6 (6)	0	0	10点 (10点)

【平均点】 10点 ÷ 3項目 = 3.33 ≒ 3点 (評価区分 C)
(10点 ÷ 3項目 = 3.33 ≒ 3点 (評価区分 C))

◎ 全体評価

全体評価の結果 C（目標の達成に向けて概ね計画通り進んでいる）

大項目区分	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	24 (16)	27 (15)	0 (12)	0 (0)	51 (43)
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (12)	12 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (15)
4 その他業務運営に関する重要事項	0 (0)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	10 (10)
合計	0 (0)	28 (32)	54 (33)	0 (12)	0 (0)	82 (77)

※（ ）書きは、当初想定を超えた新型コロナウイルス感染症の影響を考慮せず、計画に沿って評価した場合の評価点数

全体評価の結果

【平均点】 82点 ÷ 25項目 = 3.28点 ≒ 3点（評価区分 C）
 (77点 ÷ 25項目 = 3.08点 ≒ 3点（評価区分 C）)

◎ 評価のまとめ

小項目評価については、記述している通りであるが、その結果、大項目評価区分における「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「その他業務運営に関する重要事項」はすべてC評価となった。その結果、全体評価もC評価となり、佐世保市総合医療センターの令和3年度の業績評価は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。

令和3年度の年度計画については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、関連する目標値の設定がなされているものの、その想定を超える新型コロナウイルス感染症の影響があった項目もあるなど、評価においてはその影響も一定考慮している。なお、評価に当たり特徴的であった内容は次のとおり。

- ① 医療体制：佐世保県北医療圏の中核を担い、一般診療を行いながら新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる一方で、救命救急センターとしては一般の重篤な救急患者を受け入れるなど、コロナ禍において関係機関等と連携して高度急性期医療の提供を行うことで、地域の基幹病院としての役割を果たした。また、宇久診療所及び黒島・高島両診療所において、常勤医師を確保し、離島の診療体制維持に努めた。
- ② 新型コロナウイルス感染症対応：感染症指定医療機関として病床を確保し、重症・中等症の患者を中心に受け入れるとともに保健所からの重症度判定やPCR検査などの要請に応えた。結核病棟では、前年度の2倍を超える新型コロナウイルス関連の入院患者を2,414名（延べ）受け入れ、関係機関と協力しながら地域の安全・安心を支えた。
- ③ 高度専門医療：手術支援ロボット及びデュアルCTを導入するなど、域外に出ることなく高度医療を受けることができる環境を整備した。手術支援ロボット導入は長崎大学病院に続き2例目であり、適用術式を順次拡大した。総合医療センター内で高度医療に携わることができ、若手医師の育成などが図られるため、地域の医療水準を高めていくことが期待される。

④ 財務・収支：令和3年度の収支は、純利益21億6千9百万円の黒字決算となった。この主な理由としては、新型コロナ患者受け入れのための病床確保などに対する補助金収入が対前年度比で増加したこと、また、コロナ禍で患者数が減少した中、施設基準の取得や在院日数の適正化により診療単価を伸ばしたことで医業収益が対前年度比で増加したことによる。一方、支出側では、医薬品、医療材料などの調達における価格交渉の徹底や契約手法の見直しを行うことで材料費・経費削減に努めた。経常収支比率や自己資本比率などの各財務指標に特段の問題はないものの、新型コロナが収束すると補助金収入がなくなるため、ポストコロナを意識した運営を行っていく必要がある。